

教材活用シリーズ 第75回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果を得られるポイント(場面・方法)などをご紹介します。

資料の読み取りを大切に

社会科資料集の活用例を通して

青葉出版(株)
『社会科資料集』



すずき ゆうすけ
鈴木 雄介
(市川市立大和田小学校教諭)

学習の質を高めるために大切なことである。『ひとり調べ』の資料として、教科書・資料集・自作資料・子ども自身が用意した資料などを使用している。今回はそのなかのひとつである『社会科資料集』(青葉出版)を紹介したい。

2. 資料集を活用して

五・六年生になった子どもたちは、新しく加わる社会科資料集にとっても高い関心をもっている。資料集は写真や図、グラフだけでなく、コラムや教科書にない図版など多くの資料があるからである。確かに資料集は、読んでいるだけでおもしろさや新しい知識などが得られるものであるが、一方で資料の多さに戸惑いを感じたり、眺めるだけでその単元の学習内容がわかってしまったりすることも考えられる。子どもたちにただ資料を与えるだけでは、十分な効果は得られない。子どもたちには、たくさんの資料のなかから必要な情報を選択したり比較したりしながら学習を進めていける力を身につけさせたい。

そのため、まずは資料を見るポイントを教えることが大切になってくる。提示された資料がひとつか複数か、写真なのか図やグラフなのかによって、多少の違いはあるが、次のポイントを意識して資料を見るとよい。

- ① 写真のなかで、自分たちのくらしとの違いはないか。(単元:「あたたかい地域の人々のくらし」例:自分たちの家の屋根と沖縄県の住宅屋上の貯水タンク)
- ② 写真のなかで、驚きが感じられること・ものはないか。(単元:「低地の人々のくらし」例:川と川の間を広がる住宅・岐阜県海津市)

1. はじめに

小学校学習指導要領(社会編)の目標にあるように、社会科の学習を通して子どもたちにつけたい力として、次のことが挙げられる。

- ① 日本の産業や歴史に関心を持ち、理解を深めることができる。
 - ② 社会的現象を考えるときに、いくつもの立場が存在し、その立場によって多様な考え方があることを理解することができる。
 - ③ 社会的現象を考えるときに、右記のことをふまえた上で、自分の発達段階に応じた考えをもつことができる。
- これらの力をつけることで、公民的資質の基礎

を養うことができると考える。そのなかで、子どもたちが自ら考えた疑問や予想を解決していく問題解決型学習がもことになる。学習の大まかな流れとしては左のようになる。

- ① 提示した資料から子どもが感じた「驚き」や「疑問」をもとに学習問題をつくる。
 - ② 一人ひとりが予想を持ち、それに対しての調べを進める(『ひとり調べ』)。
 - ③ 『ひとり調べ』をもとに学習のまとめをする。
- このなかで大切になってくるのが、子どもたちに提示する資料であると考えられる。学習のなかで全員に提示する資料はもちろんのこと、『ひとり調べ』の時間にどのような資料を提示するかも調べ

③ 同じ種類の情報が記されている複数のグラフを比べて、同じこと、違うことは何か。

④ 違う種類の情報が記されている、複数のグラフに関連することやそこから考えられることはないか。

このように、ポイントを意識して資料を読み取っていくと、新しい事実を知るだけでなく、自分の考えを深めたり、問題を解決したりすることができるようになる。これらのことは、普段学習のなかから意識して行うべきことであり、繰り返し指導することで、子どもたちも学習の仕方が身についてくる。子ども自身の学習の質が高まり、それをクラスで共有することで、さらにクラス全体の学習の質が高まっていくと考える。

その際に私が意識していることは、黒板に提示する資料の配置である。特に、複数の資料を比べさせたいときは横並びに配置する。これは、資料を見比べやすくするためであり、特にグラフ資料の場合は、二つの量の変化や関連性を見いだす上で重要なポイントとなる。黒板に提示する資料だけでなく、調べ学習で使う資料も横並びの配置であることで、同様の効果が期待できる。

『社会科学資料集』（青葉出版）の「資料集の使い方」には、本文中で使われている学習を深めるマークなどが紹介されている。そのなかでも、共通項目のある資料を比べて違いを見る「くらべてみよう」のマークがついている資料は、調べ学習でも子どもたちに提示するときも特に有効に使うことができる。例えば、「夏と冬の季節風」についての資料では、季節風によって地域毎に受ける影響の違いが対比しやすくなっている（図1）。「米づくりのさかんな地域の気候」の資料では、異なるテーマ

のグラフを比べることで平均気温と平均日照時間の関係について新たに読み取ることができる。そのほかにも、見開きの片面に沖縄の写真、もう片面に北海道の写真など一度で簡単に比較することができる構成になっている（図2）。

このように複数の資料が比較しやすい構成になっており、これらの資料を使うことで、子どもたちの理解を深めるだけでなく、新しい疑問や予想を考えることができる効果がある。

<図1>



<図2>



3. おわりに

私が授業で資料をどのように活用するかを考え

るなかで意識していることがある。

①資料集と実物を関連させて使う。

資料集には、全国の史跡や建物、くらしの様子が写真や図で掲載されている。実際にその場に行かずして、現地の様子を学習できるよさがある。一方、実物を見たり体験したりするなかで、その資料のよさを感じることもできる。そこで、資料集にある写真や図と実物を状況に応じて使い分けることで、二つのよさを掛け合わせることができると考える。

例えば、資料集にある写真は、子どもに気づかせたいことに注目して撮られている。また、複数の写真の場合は、違いを比較しやすくするために、同じようなアングルで撮られている。このように写真ひとつをとっても、よりよい学習になるための工夫がされていることがわかる。

そのため、実物を実際に見たり、体験したりすることができない場合でも、資料集を使うことで、学習を効果的に進めることができると考える。

②資料集の内容をさらに調べる。

資料集は多くの情報がわかりやすくまとめられており、資料集だけでも授業で十分活用することはできる。しかし調べたことをそのまま使うのではなく、より詳しく追究していくことが大切である。私は疑問に思ったことは資料元へインタビューをしている。その道のプロフェッショナルへインタビューすることで、疑問を解決することができるだけでなく、調べたこと以上のことを知ることができていることがある。

このように、資料集を上手に活用することで、子どもたちの問題解決学習を進める上で、大きな助けとなると考える。